

プラスチックごみ、なぜ分別収集?



分別された「プラスチック容器包装」ごみが次々に収集車へ
クリーンセンターで、プレスされるペットボトル

疑問にお答えします

「プラスチック容器包装」の分別収集に関する疑問点を、クリーンセンターの中村所長に伺いました。

【Q1】 どうして透明か無色半透明の袋に入れないといけなのですか?

「プラ」マークの付かないものが入っていないか、中身をチェックするためです。

【Q2】 どうしてクリーニングのポリ袋やダイレクトメールの袋などは「プラスチック容器包装」ごみにならないのですか?

これらを作っている企業は「容器包装リサイクル法」の対象にならない事業者です。よって「プラ」マークの付いていないこれらのごみは「プラスチック容器包装」ごみにはなりません。

【Q3】 2週間に1回の収集は少ないのでは?

住民の声を聞き、実際の状況を把握したうえで、今後検討していきます。

【Q4】 内容物が付着して洗えないものは?

マヨネーズやほみがき粉のチューブなど、中身がどうしても洗えないものは「燃えるごみ」に出してください。中身を取り除けば「プラスチック容器包装」ごみになります。

【Q5】 透明や無色半透明の袋に入っていないものは、本当に収集しないのですか?

はい、収集していません。また、中身を洗わず汚れたまま袋に入れているものも収集しません。中身はさっと水洗いしてください。きちんと分別されていないものは、リサイクル工場から返却されます。ご協力をお願いします。

の分別収集が始まって2カ月がたちました。皆さんはもう、分別に慣れましたか?さまざまなかごみの中には「これはどの日に出したらいいの?」「このごみは集められてどうなるのかしら?」と迷ったり、疑問に思ったりすることもあるのではないのでしょうか。

今回は、施行されて間もない「プラスチック容器包装」の分別を中心に町内のごみについて調べてみました。

今日、大量化・多様化するごみはますます深刻な社会問題となつています。これは猪名川町においても例外ではありません。昨年度の町内のごみ総収集量は9209.5t。住民ひとり1日当たりの排出量で見ると、平成元年度の661gに比べ854gと、約1.3倍に増加しています。

このような現状の中、ごみを減らすにはリサイクルできるものを分別し、資源に変えることが必要です。この考えから「容器」と「包装」の再資源化を図る「容器包装リサイ

それぞれがリサイクルの役割を

ごみから再び資源へ



町でも平成11年から始まった「びん・ペットボトル」の分別収集に続き、今年10月からは「プラスチック容器包装」と「不燃ごみ」の分別収集が始まりました。これにより、今まで「燃えないごみ」として一括収集されていたプラスチック類を

「プラスチック容器包装」の分別収集が始まった当初、クリーンセンターには分別に関する問い合わせ電話がひっきりなしにかかりました。町民の戸惑いと同時に関心の高さがうかがえます。そして、

10月中旬に収集されたプラスチック類の総量は27.8t。一方、燃えるごみは今までの量の約1割減少しました。クリーンセンターの職員は「わからないことはどんどん聞いてください。一人ひとりがしっかりと分別することが大切です」と話していました。

ごみの処理には多額の費用がかかります。「ごみ1tを処理するために必要な経費は3〜4万円。昨年度は約3億2千万円もの費用がかかりました。そして、そのすべてが町民の税金でまかなわれています。環境を守るためにも、税金

を無駄なく有意義に使うためにも「プラスチック容器包装」の分別は私達の大切な役割なのです。問い合わせは、クリーンセンター(768・0818)へ。

知っていますか? 堆肥とパークの無料配布

クリーンセンターでは、生ゴミからできる堆肥と、生草や生木を細かく碎き発酵させてできるパークと呼ばれる肥料を無料配布しています。良い肥料になると、利用者からの評判も上々で、週1回の配布日には多くの人が訪れます。

【配布日】
毎週火曜日午前9時～午後4時

パーク利用者の声

小野アヤ子さん(若葉在住)

5年前から利用しています。南田原で家庭菜園をしています。このパークを畑に入ると、土が柔らかくなり、野菜のできもいいですよ。



猪名川町で収集されたごみの行方

鉄・アルミ・燃えるごみ・燃えないごみに分けられる。燃えるごみは焼却、燃えないごみは、破碎後神戸港沖埋立地へ。鉄は神戸市の工場に、アルミは三重県内の工場でのサッシや鍋になる。	茶色のびん 兵庫県姫路市の工場でのビールびんになる。 無色のびん 兵庫県明石市の工場でのジュースなどのびんになる。 その他の色のびん 兵庫県西宮市の工場での道路用アスファルトの原料の一部になる。	大阪府貝塚市の工場でのゆうたんになる。	山口県宇部市の工場での化学肥料の原料になる。
鉄・アルミ・燃えるごみ・燃えないごみに分けられた後、それぞれ処理される。	大阪市の工場での食品用のかんになる。乾電池は北海道の工場での分解される。	焼却し、出た灰は神戸港沖埋立地へ。	

【いながわ特派員】
毎日の生活の中で出る「プラ」マークの付いたごみの多さには、本当に驚かされます。食品をはじめとして、私達の回りにはきれいにプラスチックで包装されている商品があふれています。中には過剰と思われるものも少なくありません。

編集後記

